

「ぶんぶんひろば」における授業の実践  
「保育内容・造形表現」における  
「ベビー&キッズ 造形遊びDay!」  
(学芸学部 子ども学科)

## 1. 授業の概要と目的

本学学芸学部における「保育内容・造形表現」という授業は、主に学芸学部子ども学科2年生の幼稚園教諭一種免許状もしくは保育士資格取得を希望する学生が履修する。「造形表現」(2年前期)・「音楽表現」(2年後期)・「身体表現」(2年後期)・「保育内容総論Ⅱ」(3年後期)「総合表現」(4年前期)から3科目を選択すれば良いので、資格・免許希望者全員が履修するというものではない。授業担当者の方針で、理由のない欠席や遅刻や提出物に厳しく対処しているためか、例年の受講者数は、資格・免許希望者の半数～3分の2程度であるが、意欲に満ちた学生が受講している。

本授業は、学芸学部子ども学科のカリキュラムの中で初めて実施される教育・保育実習である幼稚園実習(2年後期)の前に開講される科目であることから、「造形活動を通じた乳幼児理解」をその修学目標のひとつに掲げている。そのため、毎年授業計画の中に「乳幼児および保護者と関わる実践」を取り入れている。その実践内容として、近隣の幼児施設「ちゅーりっぷ・プレイスクール」(3歳～5歳)の子どもおよび保育者で行う造形活動と「子ども・子育て支援研究センター」の子どもおよび保護者で行う造形活動が挙げられる。

## 2. 2016年度 実践状況

2016年度の本授業の履修者はグループA14名(男子4名・女子10名)、グループB21名(男子12名・女子9名)の計35名であった。そのうち、授業への出席状況や態度、提出物などに問題があり、参加が認められなかった者1名と当日欠席をした3名を除く31名が子ども・子育て支援研究センターもしくはちゅーりっぷ・プレイスクールの子どもたちと実践を行った。2016年は子ども・子育て支援研究センターにおける実践は6月24日(金)2限目(GA:12名)と7月26日(火)2限目(GB:2名)→運動部大会出場のため別日を特別に設け

た)の2回に分けて活動を行った。ちゅーりっぷ・プレイスクールの子どもたちとの活動は7月12日(火)2限目(GB:17名)に行われた。本年度は台風などの影響でセンターが閉館されるなどして、日程に変更が加わるなど例年のないトラブルもあったが、最終的には無事実施することができた。

## 3. 「ベビー&キッズ 造形遊びDay!」の試み

子ども・子育て支援研究センターの「ぶんぶんひろば」は主に幼稚園入学前の0～3歳の保護者と乳幼児が利用している。そのため、造形的な活動内容もその年齢に合わせたものを提案している。おおむね1歳3ヶ月～2歳未満の子どもの発達として、「歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけていく。歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働きかける意欲を一層高める。その中で、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具等を実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人や物との関わりが強くなる。」ということが挙げられる。

これらの「つまむ、めくるなどの運動機能の発達」や「環境に働きかける意欲」、「みたくて活動」、「人や物への関心」を育てる活動の一つとして、多くの保育園で0歳児クラスから実践されている「シール貼り」という活動がある。具体的には、赤や青などの円形のシール(直径1.5cm～3cm)を保育士が用意した台紙の上に貼ることにより、乳幼児は何かしらのイメージを作り上げて(仕上げて)いく活動である。本授業では、毎年この「シール貼り」について学習した上で、乳幼児を対象に実践することを授業計画に入れている。

本年度は毎年行っている上記の「シール貼り」の活動と「手形ぺったん」という活動を行った。「手形ぺったん」ではあらかじめ用意した台紙の上に絵の具で子どもの手形をとるという活動で、感触遊びの延長でもあり、保護者が喜ぶという利点を持ち合わせる。子どもの手形を加えることで絵が完成する台紙を考案し、作成する。

本年度はGAが子ども・子育て支援研究センターで「シール貼り」と「手形ぺったん」を行い、GBがちゅーりっぷ・プレイスクールの子どもた

ちと「シール貼り」「手形ぺったん」「ねんど遊び」「スライム遊び」を行った。

#### 4. 子ども・子育て支援研究センターにおける実践

2016年6月14日（金）10時45分、学生13名は4101教室（図画工作室）に集合の後、11時に子ども・子育て支援研究センターに入った。導入に手遊びを行い、子どもと保護者との交流のきっかけとする。その後に学生は子どもの側に行き、子どものペースに合わせてシール貼りを行った。「手形ぺったん」は希望者に4101教室に来てもらって行った。声をかけたところ、全員が希望をして4101教室で活動を行った。



写真1：子どもの手形が天使の羽になる台紙  
(2016年6月14日)

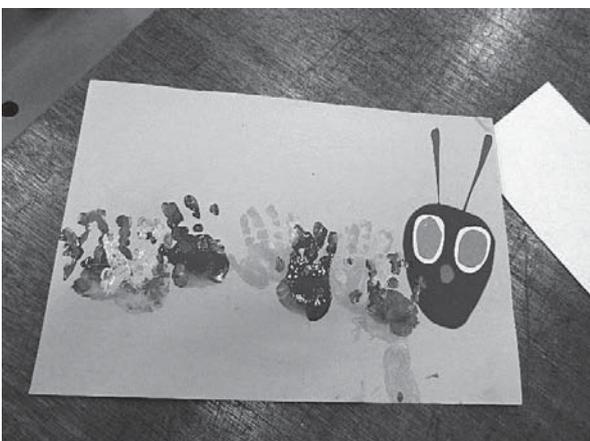


写真2：はらぺこあおむしの台紙。仕上がりイメージして、緑色と黄緑色の絵の具を用意した。  
(2016年6月14日)



写真3：台紙に手形を押す子ども  
(2016年6月14日)

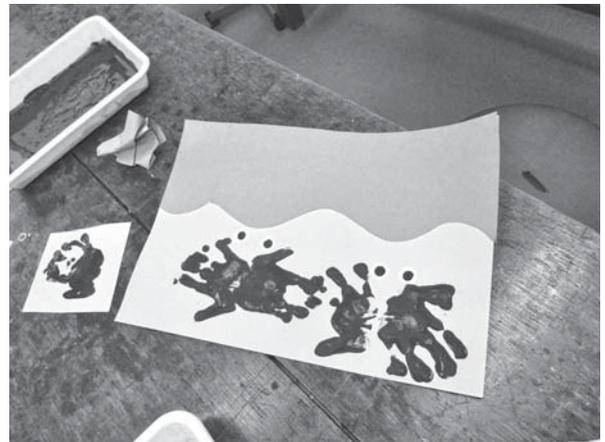


写真4：カニさんが2匹！  
(2016年6月14日)

#### ●まとめ

近年の学生たちの多くは、少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化などを受けて、乳幼児と関わる機会が極めて少ない。短時間ではあるが、乳幼児と共に造形活動をすることにより、各年齢段階での手指運動の発達や集中持続時間などを実感的に学ぶことができると考える。今後も授業に取り入れていきたい活動の一つである。

(文責：学芸学部 子ども学科 小笠原 文)